

おかやま 地域づくり 通信

「おかやま地域づくり通信」は、岡山市民の「協働(※)」への理解と参加の促進を目的に岡山市(ESD・市民協働推進センター)が発行する広報誌です。

今号では、地域課題の解決に向けた協働の取組を表彰する「おかやま協働のまちづくり賞」、市民活動団体等と行政が協働で岡山市の課題解決をはかる「市民協働推進事業」と、地域の多様な主体が協働し区民が主体となって地域の課題解決に取り組む「区づくり推進事業(地域活動部門)」を題材として、ご紹介します。

※協働:同じ目的を達成するために、互いを尊重し、対等の立場で協力して共に働くこと



第9回「おかやま協働のまちづくり賞」にて大賞を受賞した『The World Kitchen実行委員会』企画による多国籍交流イベントの様子

第9回「おかやま協働のまちづくり賞」の受賞取組が決定！

多様な主体の協働により地域の社会課題解決を目指す優れた取組を表彰する「おかやま協働のまちづくり賞」。今回は「**外国人と共につくる、暮らしやすい地域**」をテーマに岡山市内の多文化共生社会の実現に向けた地域づくりを推進する取組を募集しました。9つのエントリーがあり、インターネット投票と審査会を経て受賞取組が決定しました。

◆大賞◆

多文化交流フードイベントThe World Kitchen～多様性の輪を岡山に～ (受賞団体:The World Kitchen実行委員会)



岡山市に暮らす外国人は年々増える一方で、地域住民と交流する機会が少なく、在日外国人と地域社会の摩擦・軋轢などが問題視されています。The World Kitchen実行委員会では、約26カ国から集まった有志の大学生により、世界各国の料理を提供する飲食店の出店や交流・多文化理解ワークショップなどを開催しています。

世界に共通する“食”をツールとすることで、多文化交流のハードルを下げ、日常的な多文化交流の促進や、多様性を認め合う価値観を醸成し、誰もが住みやすいまちづくりを目指しています。

第9回おかやま協働のまちづくり賞エントリー取組



マルシェ万富がつなぐ
多国籍交流／モモタク
運営協議会

入賞



ドイツ・メムリンゲン町
民音楽グループとの交
流活動／メムリンゲン音
楽グループ受入実行委員
会



学校・年齢・国籍の枠を
超えた「みつ元気プロ
ジェクト(MGP)」によ
るまちおこし／みつ元
気プロジェクト

入賞



岡山の外国人女性と
日本人女性を結ぶ会
／Femmeインターナ
ショナル岡山



Linksプロジェクト／
公益財団法人橋本財団

奨励賞



外国人と若い世代と共
に多様性を認め合う豊
かなまちづくり／INE
(居場所づくりネットワ
ーク)

入賞



2023年度・第20期
「国際塾」第8回(中・高
生対象)／特定非営利活
動法人こくさいこども
フォーラム岡山



ベトナムと岡山の架け橋
～日本ーベトナム人が幸
せに暮らせる岡山を目指
す「IPUカルチャー」～／
IPU環太平洋大学サステ
ナブルブランドプロジェク
ト

入賞

今回エントリーされた9取組はこれからの岡山市での多文化共生のさらなる促進が期待される素晴らしい取組でした。各取組の詳細はウェブサイト「つながる協働ひろば(右の二次元コード)」からご覧いただけます。



令和6年度岡山市市民協働推進事業

岡山市の社会課題を解決するために行政との協働によって実施される事業に対して補助金を交付する制度です。補助期間は最大2年間で、補助期間が終了した後も岡山市の施策や団体の自主事業として取組を継続していくことを目指します。令和6年度から新たに開始された事業についてご紹介します。

事業名 岡山空襲を知らう伝えようプロジェクト

◆解決を目指す課題◆

戦後78年が経過し、戦争を直接体験した世代の人たちは少なくなり、戦争を知らない世代がほとんどとなっています。また岡山空襲展示室は岡山空襲を中心とした資料を展示し、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいくための施設ですが、説明付きの見学予約以外は、展示室は無人であり、学校による活用もごく一部となっています。

本事業では、岡山空襲展示室にボランティアガイドを設置することにより、施設の利活用が進み、岡山空襲を知り、戦争・平和について考え、次世代に継承し、活動の裾野を広げることを目指します。

課題解決の方法(事業の内容)

- ・ボランティアガイドの活動内容を検討するため、空襲展示室見学者(岡山シティミュージアム内の他施設利用者も含む)に調査を実施する。
- ・実施団体のメンバーを対象にボランティアガイド養成講座を開催する。
- ・ボランティアガイドが今後、若い世代も取り込み、継続した事業となるように、講座内容、ガイドマニュアルの作成、ガイドの運営の仕方などを検討する。

事業の目標

- ・岡山空襲展示室の「ボランティアガイド」を養成し、設置する。(1期生は実施団体のメンバーを中心に養成する)
- ・ガイドの内容・範囲、募集対象者・広報、運営について検討し、一般応募者のボランティアガイドも養成する。

実施主体と主な役割

◆実施団体 平和推進岡山市民協議会◆

- ①ガイドの活動内容検討のため、空襲展示室見学者等の状況を調べ、ニーズ調査を実施する。
- ②ガイドの活動内容、マニュアルと運営の仕方を検討し、作成する。
- ③ボランティアガイド養成講座を受講する。

◆協働部署 福祉援護課◆

- ①ガイド養成のため、展示室や戦災展の見学を受け入れ説明等を行う。
- ②ガイドの活動内容、マニュアルと運営の仕方を検討し、作成する。
- ③広報活動を展開する。

《実施団体紹介》

平和推進岡山市民協議会(2014年より現団体)

岡山市民に対して、平和の推進に寄与することを目的とし、戦争と戦災に関する資料収集、戦争と戦災体験の語り継ぎなどを実施している。



ガイド活動内容検討のためのニーズ調査



空襲展示室ボランティアガイド養成講座

市民活動リーダー養成講座

見る人に伝わる 広報・SNS講座～効果的な情報発信のコツとは～

◆主 旨◆

SNS等の普及により、多くの人が手軽に情報を収集できる環境となり、SNSの活用やプレスリリースは市民活動にとって欠かせない情報発信の手段となっています。それぞれの特性を理解しつつ、より多くの人へ情報を伝えるポイントを学ぶ講座を開催しました。

◆講 師◆

加藤 雄也 さん(株式会社ビザビ/地方創生局 備後オフィスマネージャー)
上運天 ともみ さん(株式会社ビザビ/地方創生局 地域デザインチーム)

加藤さんからは、SNSの特徴、SNSがそもそも何故必要であるか、情報発信はまずはどういった人に届けたいか、何のために運用するかを整理した上で、サービスを選択することの重要性をお話いただきました。また、世界的にもユーザー登録数の多いInstagramマーケティングの特徴や具体的なアカウント設計や運用についてもご紹介いただきました。

上運天さんからは、メディアに向けた情報発信として、広報と広報PRの違い、プレスリリースの基礎知識や書き方のポイントなどをお話いただきました。



インスタの使い方で知らない機能を知る事ができた。ハッシュタグの使い方を見直したい。

SNSの運用は農業と似ているという言葉になるほどと思った。丁寧に育てようと思います。

市民活動リーダー養成講座

先輩NPOに学ぶ 協働・はじめの一步 ～あなたの課題解決に市役所を巻き込もう～

◆主 旨◆

「岡山市(行政)との協働に関心があるけど、誰に相談すればよいのか、どのような準備が必要かわからない」という市民活動団体の皆さんと、岡山市との協働を考える講座を開催しました。

◆登壇者(協働の経験をお話いただいた先輩NPO)◆

中山 遼 さん(NPO法人あかね/代表理事)
三好 祐也 さん(認定NPO法人ポケットサポート/代表理事)
柚木 幸子 さん(NPO法人オカヤマビューティサミット/代表理事)

登壇者の皆さんには協働の事例紹介や協働に至った経緯、行政との協働で必要となるスキルや考え方をお話いただきました。

クロストークでは、公的資金を使うことはどのようなことなのか、協働課との関係構築のポイントなど、普段では聞けない協働の経験をされた方ならではの本音トークを聞くことができました。



行政の考えや仕組みを知り、調査などで社会のニーズをつかみ、今後アプローチをしていきたいと思っています。

◆主 旨◆

誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくるために、住民が集い、ゆるやかにつながる「地域の居場所」が各地で開かれています。居場所の運営は決して簡単ではありませんが、工夫次第では、多くの住民を集め、交流を生み出すだけでなく、住民の健康寿命の延伸、地域の安全・安心の向上、地域活動の新たな担い手の発掘など副次的な効果を生み出すこともできます。専門家と実践者から学び、参加者同士で交流、情報交換などができる講座を開催しました。

◆登壇者◆

講 師 澤岡 詩野 さん(東海大学 健康学部 健康マネジメント学科 准教授)

取組紹介 柿崎 由秀 さん(平島健康福祉委員会 会長)



澤岡さんの講演では、1年後、2年後も常に変化していく相手の日常に「つながり」や「場」があり続けるために必要なこと、また地域に求められている「つながり」や「場」は多様になり、そのためには「気軽」に「ゆるやか」な小さなつながりの場所がたくさんあることが重要で、具体例を交えてお話いただきました。



平島健康福祉委員会は平島学区の課題解決の実働部隊として立ち上げられ、会長の柿崎さんより、多世代が集まり交流できる場づくりについて紹介いただきました。ご自身の経験から「しなければならぬ」ではなく「何とかなるかも」という発想と、「活動しているみんなが楽しむ」「細くても継続する」ことが取組のポイントとお話しされました。

- ・今町内会で抱えている問題にピッタリ参考になった。
- ・具体的な事例が分かりやすかった。
- ・すぐに帰って仲間と話し合いたいことが生まれた。

令和6年度 岡山市災害ボランティアネットワーク連絡会議

「岡山市災害ボランティアネットワーク」では、令和元年7月の発足以降、登録団体を対象とした交流会・研修会を毎年実施しており、災害発生時の関係者間の円滑な連携に向けた知識・技術の習得と関係づくりを進めています。今年度は被災者支援に携わる団体が知っておくべき法律や災害時に活用できる制度についての知識を習得するとともに、大規模災害発生時の具体的な連携を想定した図上訓練を実施しました。



◆講 演◆

「制度からみた被災者支援」

◆講 師◆

大阪公立大学 大学院文学研究科
准教授
菅野 拓 さん



◆情報提供◆

「大規模災害発生時の岡山市及び
危機管理室の役割について」

岡山市危機管理室



◆図上訓練◆

災害発生日から3日間で各団体がどのような支援ができるのかを書き出し、どの団体と連携を図ればより迅速な支援が可能であるかを確認しました。併せて、菅野さんや岡山市からお話しいただいた支援制度や情報を、どの場面で活用すべきなのかも話し合いました。



※「岡山市災害ボランティアネットワーク」は、岡山市・社会福祉法人岡山市社会福祉協議会・NPO法人岡山NPOセンターで「平成30年7月豪雨」の対応で得た経験や教訓を今後の防災や災害支援に活かし、被災者に迅速かつ柔軟な支援を届けるために2019年に発足しました。岡山市内のボランティアグループ、NPO法人、企業などが登録をしています。

区づくり推進事業の取組



岡山市区づくり推進事業【地域活動部門】とは、地域住民組織をはじめ、NPO法人、ボランティア団体、学校、企業等、多様な主体の協働を進め、地域課題を解決するための継続的な取組を支援する制度です。

持続可能で暮らしやすい地域づくり・区のまちづくりを推進することを目的としています。令和6年度は、17事業(北区:5事業、中区:3事業、東区:6事業、南区:3事業)が行われました。

実施団体は、それぞれの地域の課題をとらえ、その解決に向けた活動に継続的に取り組んでいます。

今回は、区づくり推進事業【地域活動部門】開始当時から活動に取り組み、10年の節目を迎えた3つの事業を紹介します。

つながる協働ひろばのFacebookでは、
区づくり推進事業【地域活動部門】の
実際の活動の様子を紹介しているよ！
ぜひのぞいてみてね！



建部町伝統芸能伝承保存会 —建部地域伝統芸能伝承事業—

北
区

活動の目的

建部地域では少子高齢化の影響で過疎化が進み、伝統芸能の継承者が減少していることが大きな課題となっています。

建部町伝統芸能伝承保存会(以降、伝承保存会)は、建部地域で受け継がれてきた伝統芸能の保存と伝承を推進する活動を行っています。

伝承活動を通じて、希薄になりがちな地域のコミュニケーションを活性化させ、地域全体で心豊かな社会を維持・継承することを目指します。

活動紹介

伝承保存会は、建部町内の11の保存会によって構成されており、毎年10月に開催される「建部祭り(県重要無形民俗文化財)」などの秋季大祭で奉納される棒遣い・神楽(獅子舞)の伝承活動を行っています。

秋季大祭に向けて各保存会ごとに練習が行われ、子どもたちへの指導や指導者の育成を通じて、伝統芸能の継承に取り組んでいます。

祭り当日は、町内外から多くの人々が訪れ、にぎやかな雰囲気の中で棒遣いや獅子舞が披露されます。伝承保存会が祭りの準備や練習を通じて、地域の伝統芸能を次世代に引き継ぎながら、地域の郷土芸能を盛り上げています。



岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会 —「やさしく走ろう京山」運動の推進—

北
区

活動の目的

岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会(以降、協議会)では毎年、ESD・SDGsフェスティバルにて地域課題を論議しています。平成27年以来、京山地区の最大の課題であると指摘された「自転車マナー」の向上のために、「やさしく走ろう京山」運動を展開しています。

「自転車先進都市岡山」の実現へ向けてさらに活動を発展させ、京山地区を安心安全で住み続けられるまちを目指しています。

活動紹介

協議会では、「やさしく走ろう京山」運動として、自転車マナー向上のチラシを配布し、地域・大学等と協働して岡山市の自転車マナー向上を呼び掛ける「自転車マナー向上協働行動」を実施しています。

令和6年度は10月21日・1月21日に実施し、岡山大学の大学生、警察官、京山公民館の職員など、のべ約60名が参加しました。

また、令和7年度からは、「やさしく走ろう京山」運動から「やさしく走ろう岡山」へ発展させ、「自転車先進都市岡山」の実現に向けて活動を継続していく予定です。



平井学区地域づくり会議 —地域づくり会議の運営と事業展開—

中
区

活動の目的

平井学区地域づくり会議は、平井学区内の諸団体の代表者等で構成された組織です。地域内の縦割りを解消し、団体同士の連携を深め、効率的な意思決定と行動ができる体制を整えています。

「高齢者の健康」「子どもの居場所づくり」といった課題の解決に向けた事業を実施することで、高齢者から子どもまで、すべての住民が安全で健康に暮らせる地域を目指します。

活動紹介

年4回の定例会議では、地域内の活動団体が集まり、それぞれの活動状況や課題について話し合います。課題に応じた専門部会ごとに事業を実施し、地域全体で課題解決に取り組んでいます。

高齢者対策を専門とした部会では、「健康チェック」や「認知症サポーター養成講座」、「オレンジカフェ※」を実施しています。※オレンジカフェ:認知症の人とその家族、地域住民など誰もが気軽に参加できる集いの場所

また、子どもの居場所づくり等に取り組む部会では、「プレイパーク」や「ひらい子どもフェスタ」を実施し、子どもたちが安心して集い、楽しめる環境づくりを行っています。

地域の課題をみんなで考えて話し合いながら解決していく仕組みを整え、これからも様々な取組を続けていきます。



協働のパートナー-見つけます！

ESD・市民協働推進センターの紹介

ESD・市民協働推進センターは岡山市協働のまちづくり条例第8条に規定された協働のコーディネート機関です。平成26年の事業開始以降、現在まで行政・NPO・町内会・企業・学校・公民館などのさまざまな団体をつなぎ、協働を推進しています。

そのほかにも、協働の担い手の発掘や育成、情報共有や交流の場の提供、多様な主体が社会課題の解決のために実施する事業の伴走支援など、条例で規定された施策の実施やその支援を担っています。

協働に関する問い合わせ・相談にも日常的に応じているので、お気軽にご利用ください。

市民協働推進事業

- ・課題解決を進めるために、多様な主体の出会いの機会をつくり、団体と協働事業課を支援します。
- ・協働の担い手となる主体の発掘・育成を進めます。
- ・協働による課題解決の事例を増やし、協働の意義を広げます。

地域協働支援事業

- ・地域における課題解決型の取組を支援します。
- ・課題解決型の地域活動を生み出し、協働のできる地域団体・人材の育成をすすめます。

ESDプロジェクト普及・促進事業

- ・ESD事業の発掘や活動支援を行い、市民活動へのESDの浸透をはかります。

令和6年度スタッフ

平成26年度から令和5年度までの実績

	総数(のべ)
相談件数	2,612 件
相談人数	5,411 人
マッチング件数	143 件



センター長
高平 亮



アドバイザー
戸田 瑠美子



アドバイザー
松浦 千裕



サポートスタッフ
森下 直子

【発行日】令和6年2月28日

【発行元】ESD・市民協働推進センター

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1

岡山市役所 本庁舎2階 市民協働企画総務課内

TEL:086-803-1062 FAX:086-803-1872

E-mail: esd-smc@googlegroups.com

「つながる協働ひろば」では岡山市内の協働の取組支援情報や様々な団体の活動内容、協働の取組などを紹介しています。

